

電子技術キーワード解説

知っておきたい最新の動き

[クラウド・コンピューティング (Cloud Computing)]

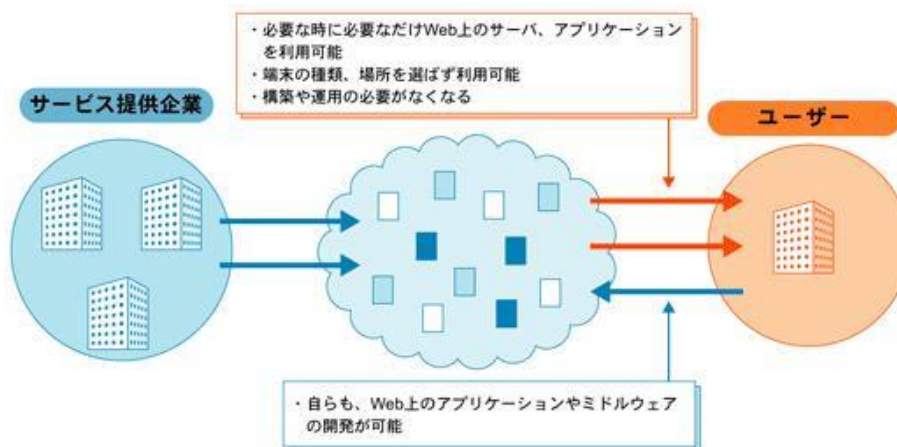
米国では、2006年ごろから、注目のキーワードとなっているコンピュータの利用形態を示す「クラウド・コンピューティング (Cloud Computing)」という言葉があります。これは、インターネット上にグローバルに拡散したコンピュータ・リソースを使って、ユーザーに情報サービスやアプリケーションサービスを提供するというコンピュータの利用形態です。「クラウド」とは、インターネットの中に無数に広がるコンピュータ・リソースを、沸き立つ「雲 (クラウド)」になぞらえた表現で、2006年、GoogleのCEO エリック・シュミット氏の講演などをきっかけに、世に広まりました。

コンピュータの利用形態は、従来まで、以下のような変遷をしてきました。

- (1)メインフレームによる集中処理
- (2)オープンシステムによるクライアント・サーバなどの分散処理
- (3)インターネットによるネットワーク中心の、新しい集中処理

そして、今後は、接続先を意識せずにサービスを受けるクラウド・コンピューティングの処理形態になるだろうと考えられています。

従来のコンピュータ・ネットワークでは、ネットワークは単にデータやメッセージが通過する経路であり、エンドノードである個々のコンピュータこそが計算や情報処理を行う主体でした。これに対してクラウド・コンピューティングには、つかみどころのない「雲 (クラウド)」化した巨大ネットワーク (インターネット) に、あらゆるシステムリソースが集約され、それ自体がコンピュータとなるという、パラダイムシフトの意味が込められています。



クラウド・コンピューティングの活用はまず、インターネット上の個人向けサービスを舞台に広がり始めました。例えば、Google が提供している Gmail です。次に、この現象がいま、業務用アプリケーションのオンライン提供やミドルウェア開発プラットフォームの提供などの形で、企業向けサービス分野へと広がりつつあるのです。Google、Amazon、IBM、SalesForce.com、Apple など、名だたる IT系企業が既に、クラウド・コンピューティングの分野に参入済みです。

クラウド・コンピューティングのユーザーは、ソフトウェアの購入・開発やサーバのメンテナンス、

データベースの管理について一切考える必要はなくなります。単に、コンピュータ・ネットワークがもたらすさまざまなサービスを、適正な料金を払って活用することだけになります。

このことは、ユーザーにも変革を迫ることになるでしょう。自分たちはコンピュータ・システムを使って行いたいこと、そのために必要なサービスについて、より厳密に考えねばなりません。また、既存リソースとクラウド・コンピューティングの連携を図ることも考える必要が出てきます。

ともあれ、クラウド・コンピューティングは今後、数年、コンピュータ・ネットワーク利用に関連する最大のキーワードのひとつとなるでしょう。今後の展開に、注目してきたいと思います。

(http://www.nec.co.jp/ml/?t=itv_cloud&p=e210t91100000705369 から図を引用、および参考)

Copyright (C) Satoru Haga 2008, All right reserved.

<p>技術・経営の戦略研究・トータルサポータ</p> <p>ティー・エム研究所</p>	<p>工学博士 中小企業診断士 社会保険労務士(登録予定) 代表 芳賀 知</p>
<p>E-Mail: GHH12525@nifty.com URL: http://tm-lab.a.la9.jp/</p>	